

会議録

1. 会議名	平成29年度 第1回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	平成29年6月23日（金）14:00～16:00
3. 開催場所	出雲市役所本庁舎3階 庁議室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>肥後功一委員（会長）、勝部順子委員、玉木満委員、重栖伸也委員、 福田貴之委員、羽根田紀幸委員、坂根守委員、飯塚勉委員、 飯塚由美委員、林浩司委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員、 西郁郎委員、三成重雄委員（順不同）</p> <p>（欠席：高橋恵美子委員、原広治委員、周藤剛委員、糸原直彦委員、 高橋良介委員、原成充委員）（順不同）</p> <p><事務局></p> <p>子ども未来部長、子ども未来部次長（兼 保育幼稚園課長）、 教育委員会教育部次長（兼 学校教育課長）、子ども政策課長、 福祉推進課長、健康増進課長、市民活動支援課長、児童生徒支援課長、 健康増進課主査、子ども政策課長補佐、保育幼稚園課長補佐 ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 平成29年度の保育所・幼稚園の入所・入園状況等について（報告）</p> <p>(2) 平成29年度 放課後児童クラブ事業の実施状況について（報告）</p> <p>(3) 平成28年度 年中児発達相談事業の実施状況について（報告）</p> <p>(4) 出雲市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの方向性について</p> <p>4 今後のスケジュール</p> <p>5 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	<p>1 開会</p>
子ども未来部長	<p>2 あいさつ</p> <p>平成26年度に作業を行って、平成27年度からの5か年計画「子ども・子育て支援事業計画～いきいきこどもプラン～」を策定したが、今年度が中間年にあたるため、今まで2年間で取り組んできた事業の進捗状況を報告すると共に、これから先を見据えた中で、この計画の内容について特に「量の見込み」あるいは「確保方策」について検証し、見直すべきところがあれば見</p>

	<p>直しをしていきたいと考えている。そうした意味でも今年度のこの会議の位置づけは、大変重要なものになると思っている。</p> <p>特に今年度は、年度当初に保育所の待機児童の関係、あるいは児童クラブの受入体制などを課題として受け止めているが、この課題を委員と共有しながら、今後の対応策について一緒に考えていきたいと思っている。委員には活発なご意見をいただき、また今年度から役職交替という形で、前任の委員を引き継がれた新しい委員もおられる。忌憚のない意見をいただき本年度のプランの見直しというのが本会議の大変重要な役割になっている。お力添えをお願いしたい。</p>
事務局	<p>昨年度から2年の任期で委嘱をさせていただいている。各関係機関・組織において役職交替ということで、今年度から交代された委員が8名おられる。多くの委員の交代があったので、本日出席されている委員全員に自己紹介をお願いしたい。</p>
全委員	<p>(名簿記載順に自己紹介)</p>
事務局	<p>(欠席委員等の報告)</p> <p>現在のところ、委員20名のうち14名が出席ということで、子ども・子育て会議条例第6条により、過半数の定足数を満たしていることを報告する。また、本会義は子ども・子育て会議規則第3条の規定により公開で進める。</p> <p>議事録については、後日ホームページ等で公表することを、了承いただきたい。なお、本日出席している事務局職員については、事務局名簿で紹介に替えさせていただく。</p> <p>続いて、肥後会長からごあいさつをいただきたい。</p>
肥後功一会長	<p>この夏に行われる様々な学校教育あるいは保育関係の研修会で、重要なテーマになっているのは、学習指導要領の改訂、保育所保育指針の改定である。平成32年から新しい学習指導要領が小学校で全面的に施行される。それに先駆けて平成30年度から幼稚園教育要領と保育所保育指針が全面的に改正される。</p> <p>簡単に紹介すると、今までも保育所保育指針の3・4・5歳児の保育の内容の部分(第3章)は、幼稚園教育要領の幼児の教育の内容(第2章)の部分と釣り合いを取りながらではあるが、若干、ずれのある状態であった。それが今回の改訂では、両者が(用語上の違いを除けば)内容的には全く変わ</p>

<p>事務局</p> <p>肥後功一会長</p>	<p>らず同じということになった。</p> <p>さらにこれまでの保育所保育指針では、0・1・2歳児の保育の内容は、養護を中心とする、生活の中から子どもを育てるという内容で第3章に記載されていたが、この養護の部分が第1章「総則」に移動し、3・4・5歳児に対する教育的な視点を3歳未満児にも広げる形で、保育の目標、あるいは身につけるべき力が明示されるように変更された。</p> <p>幼稚園教育要領も保育所保育指針も、3・4・5歳のところは「健康・人間関係・環境・言葉・表現」という5つの領域（小学校でいうと教科のこと）に従って進められているが、これが新しい指針では保育所の1・2歳児にも適用されることになる。0歳児（乳児）においても、身体的発達・社会的発達・精神的発達の3つの領域に分けて、教育的なねらいをもった保育を計画的に行うよう求められることになる。</p> <p>一言で言うと今回の指針の改定は、保育所における教育重視の方向を明確に打ち出していると言える。私どものこの会議では、当然ながら、子どもや子育ての福祉に関わる問題を中心的に議論することになるが、一方で、いま幼稚園も保育所も含めて、乳幼児保育に求められているのは、その教育的な機能の質の確保や向上なのだというのを、敢えて指摘しておきたい。</p> <p>一方では様々な生活支援を図っていかなければならない子どもが増え、要保護児童対策協議会と連携しなければならないケースも非常に増加しているということも間違いない。子どもに関わる課題は非常に幅広く展開してきており、この子ども・子育て会議も一定の責任を持って臨まなければならないということになると思う。</p> <p>今日は、平成29年度のスタートの状況について紹介いただきながら、昨年度出てきた様々な課題について今後どう進めるかということについて協議をすることになる。委員からたくさん意見をいただき、良い会になるよう進めていきたい。</p> <p>(配布資料の確認)</p> <p>これより議事である。子ども・子育て会議条例第6条の規定により、肥後会長に今後の議事の進行をお願いする。</p> <p>3 議事</p> <p>まず、議事1～3は事務局から現状を報告いただき委員からの意見をいただく。議事4がメインになるが、事業計画をたてたが数値の見直しを図らなければならない状況が起きてきているので、その点について提案をいただ</p>
--------------------------	--

事務局	<p>く。</p> <p>そうすると議事1について、今年度の4月1日時点での入所・入園の状況について、待機児童の状況を中心に報告いただきたい。</p> <p>(1) 平成29年度の保育所・幼稚園の入所・入園状況等について（報告） 【資料1】について説明</p>
肥後功一会長	<p>資料に出ていることに加えて口頭で数値の説明をいただいたので、いわゆる待機児童・入所未決定者の内訳についても、ほぼどのくらいの割合かということが分かったと思う。保育所・幼稚園・認定こども園、それぞれの状況について報告をいただいたが、この数値についてご質問等ないか。</p> <p>当初子ども・子育て支援事業計画を策定時にたてた見込み数値と、実数値がずれてきたということから計画の見直しが必要になるところである。全体の状況については後から少し出てくると思うが、とりあえずこの4月1日時点での報告であった。</p> <p>6月になったので、少し状況が動いていると思うが、何か分かっていることはないか。</p>
事務局	<p>保育所の待機児童は当初78名であったが、6月時点でこの内14名が入所決定している。この他に家庭で保育ができるとか、認定保育所に入ったとかで申請を取り下げられた方が4名あり、計18名が何らかの決定をしている。</p> <p>78名の中で1歳児が多いということで説明をしたが、1歳児については児童6名に対して保育士が1名必要であるという基準になっている。このため1歳児の申し込みが多かった関係で保育士がなかなか確保できなかったという園もあり、急に待機児童が増えてしまったということもある。</p> <p>また、出産適齢期の保育士が多いため、園によっては6名が産休・育休をとられ、その補充がなかなか出来なかったということも聞いている。</p>
肥後功一会長	<p>4月1日の状況よりは少し改善しているということであった。全国的に待機児童を減らすために各施設が努力されているということであるが、どの施設も保育士不足ということに苦慮されているところである。</p>
肥後功一会長	<p>続いて、議事2 平成29年度の放課後児童クラブ事業の実施状況についてである。</p> <p>放課後児童クラブについては、時間延長等も含めて昨年度部会を立ち上げ</p>

	<p>て検討もしてきたし、無理を言って児童クラブを運営されている方々等にも協力をいただいた。その結果今年度は少し制度的な変更もされたと思うので、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2) 平成 29 年度 放課後児童クラブ事業の実施状況について (報告) 【資料 2】について説明</p>
肥後功一会長	<p>今年度新たにスタートする放課後児童クラブの制度等について報告をいただいた。4 点大きく方針に沿って報告があったが、何か質問・意見等はないか。</p> <p>三成委員、延長制度の導入に関して、みなさんで協議され、また 5 月に説明を受けられたということであるが、何か意見等ないか。</p>
三成重雄委員	<p>この制度は、開所時間そのものは 6 時までであるが、遅れて迎えに来る保護者から料金をいただくことにより、きちんと 6 時までで迎えに来てもらうことを目的に行うということであった。しかし 300 円を支払えば遅れて迎えに来て良いということで、徐々に開所時間が 6 時半までになってしまう懸念がある。</p> <p>それから、今まで 6 時までだと何とか頼んで人員確保をしてきたが、これが 6 時半までになると、今後人員確保が出来なくなることがやや懸念される。</p> <p>制度をスタートしてみて、どうなるのか我々も分かっていない。この方向で実施してみようということである。</p>
肥後功一会長	<p>44 クラブの内、どれくらいが 10 月からの延長を実施されることになっているのか。</p>
三成重雄委員	<p>7 月から意向確認をされるということになっている。まだ、各運営委員会で審議されているところではないかと思う。</p>
肥後功一会長	<p>6 時を超えている部分をボランティアで引き受けられているが、6 時半までにして料金をきちんと負担してもらうことにすると、今度は 7 時までになってしまうのではないかという危惧もあるかもしれないが、これは実施してみたらでないと分からないと思う。</p> <p>それよりも地域にとっては、人員確保が一番の問題ではないかと思う。</p>

<p>玉木満委員</p>	<p>延長負担金の 10 分当たり 100 円と条例改正されたということであるが、これの根拠を説明して欲しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>延長負担金の考え方は、ファミリーサポートセンターの利用料金を 30 分当たり 300 円としており、基本的にはこれに準じている。10 分刻みにしているのは、少しでも早く迎えに来ていただきたいという思いからである。</p>
<p>玉木満委員</p>	<p>10 分刻みにされたのは、できるだけ早く迎えに来ていただきたいという思いであることは良く分かった。</p> <p>しかしながら、先程三成委員からも話があったとおり、10 分当たり 100 円、1 か月あたり 5～6 千円を追加負担さえすれば、延長預かりを行ってくれる施設だとならないよう、市としても様々な方策を練って欲しい。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>こうした延長制度をきちんと整備しておくことによって、親が安心して子どもを預け、余裕を持って安全に迎えに来られるのではないかと思う。</p> <p>10 分刻みの料金ということで、あまりギスギスした感じになってもいけないので、上手く実施していただくようお願いする。</p>
<p>高橋悦子委員</p>	<p>延長制度が認められ、10 分でも 20 分でも延長してもらえることは、まず一番に親の安心につながる。</p> <p>保育園は終わりが 18 時とか 18 時 15 分で、園によって違うが、そこから当日でも延長できる制度があり、1 時間まで延長ができるということで、最長で 19 時から 19 時 15 分まで延長できていた。また、幼稚園の預かり保育では、18 時 30 分まで預かりの制度があった。</p> <p>しかしながら、小学校に上がったとたん、必ず 18 時までには迎えに行かなければならないという児童クラブの原則は、フルタイムで仕事をしている親にとっては大変に厳しいものであった。親からしてみると 10 分でも延長制度を設けてくれたということは、親の安心につながっている。</p> <p>本会に出席するにあたって、児童クラブの延長を希望している親の話を沢山聞いた。延長料金を負担するのは当然のことで、10 分でも 15 分でも延長してもらえると有難いという意見を持って本会に参加させてもらっていたので、この改正内容の報告を受け、本当に親として有難いと思っている。お礼を申しあげたいと思う。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>一生懸命働いている親が安心して子どもを迎えに行けるといふ、そのこと</p>

	<p>に対応できるということが一番の本旨である。きょうだい別々の園において、二人を迎えに行き、それから買い物というバタバタの中で親子が事故に遭うということがあってはならない。少し余裕を持って、そういうセーフティーネットがあるということを手く活用していただくというのが本旨である。</p> <p>先程三成委員から話があったように、そのことを支える側の人員体制があるのかということについて、なかなか厳しい地域もあるということであるから、これについても何らかの方策が必要ではないかと思う。</p> <p>2番目に書かれている方針2は、指導員の方々にとって対応の難しい子ども、いわゆる発達障がいという状況を抱えた子どもがいるクラブも少なからずある中で、この子にどういう風に対応するのが良いかということについて、深く悩まれるケースがあると聞いている。</p> <p>巡回される方の人材を確保することは難しいと思うが、例えば市役所に相談をかければ、そこには専門家がいて、日にちを選べば相談ができるという体制は組めるのか。そのあたりはいかがか。</p>
事務局	<p>市役所に月 17 日間勤務する嘱託員を想定しており、本課に連絡をいただくと相談できるということとなる。主に現場の支援員からの相談がメインになるのではないかと考えている。</p>
肥後功一会長	<p>人材が確保できなかったということではなく、確保できない場合には、ここに相談すれば少し待ってもらうけど、こういった体制があるとか、こういう人が見に来るといようにしてフォローができるような体制を、教育委員会との連携が必要かもしれないが、嘱託でこういった属性を持っておられる方を活用するという観点から、雇用契約もあって難しいかもしれないが少し検討いただけたらと思う。</p>
廣戸悦子委員	<p>延長を6時30分までされるようになることは、保護者にとってはとても有難いことであると思う。</p> <p>自分はファミリーサポートセンターに登録しており、現在1年生の子どもをもう一人の会員と交替で、毎日児童クラブに迎えに行き、祖母が待つ自宅に送るというサポートをしている。1回当たりの料金は400円である。これには交通費100円が含まれている。6時30分まで預かってもらえるようになると、両親が迎えにいけるようになるので、延長料金が300円かかったとしても、ファミリーサポートセンターを利用するよりは安いと思う。</p>

肥後功一会長	<p>自分が迎えに行くと、どうして両親が迎えに来ないのかという他の子ども達からの声が聞こえる。本人がどう思っているのか気になっている。</p> <p>両親が迎えに来るということは、子どもにとっては嬉しいことだと思う。</p> <p>そういう意味でも良い制度になるようにということだと思う。</p> <p>それでは議事3であるが、これは昨年度実施された年中児発達相談事業の実施状況について報告をいただきたいと思う。これはアンケートを実施され、その結果発達に課題がある子どもを相談でサポートしていこうという事業である。</p>
事務局	<p>(3) 平成 28 年度 年中児発達相談事業の実施状況について (報告)</p> <p>【資料 3】について説明</p>
肥後功一会長	<p>事業の実施にあたり、対象となる幼稚園・保育所の全園に協力いただき、また対象となる 1,573 人のうち 99.4%にあたる 1,563 人の保護者からアンケートの回答をいただけたということは、それだけでも大変に意味のある事業であったと思う。</p> <p>1,563 人のアンケートの回答の結果、心配や相談が有るという保護者が 47.5%で、無いという保護者が 51.9%となっているが、問題は保護者が心配や相談が無いとされた子どもの中に支援が必要な子どもがいる場合の対応である。市ではどのくらい把握しているのか。</p>
事務局	<p>本市では、保護者の心配感が少ない子どもを含めて、アンケートを回答された全児について、園との情報共有を行っている。</p> <p>また、臨床心理士等が幼稚園・保育所を訪問し、子どもの様子についての情報共有や、園への助言及び保護者面談を随時実施し、支援を要する子どもの把握に努めている。</p>
肥後功一会長	<p>ある意味では園が捉えている子どもの姿について、措置的には把握してあって、なおかつ必要時には個の情報を突き合わせる事が可能だということである。</p> <p>この事業について、小児科医会としてこれまでも事務局への助言をしてこられたと思うが、羽根田委員の感想はいかがか。</p>
羽根田紀幸委員	<p>この事業が始まる前は、園や市の実務の負担が大きくて大変ではないかと思っていたが、実際に始まってみると思っていたよりスムーズに良い結果が</p>

	<p>出ていると思う。</p> <p>出雲市は、乳幼児健診から3歳児健診までの間、家庭や子どもの把握に丁寧な努めておられ、我々医師が健診に行った時にもきちんと対応されていると思っているが、それが就学まではつながっていない。3歳児健診から就学までの期間の子どもの様子がこの事業で小学校へ伝わることで、子どもや保護者の支援につながることを期待できる。この事業を続けることによって、かなり良い結果が出てくるのではないかとと思っている。</p> <p>また、肥後会長が言われたように、保護者が心配や相談が無いと回答された中にも支援が必要な子どもがいるのではないかという認識を、我々医師も持っている。今後の課題であると思う。</p>
肥後功一会長	<p>このアンケートの良いところは、かなり大きなスペースを保護者の自由記述欄としているところである。保護者が子どものどんな良いところを見ているかとか、成長して欲しいと思われるところはどこかとか、子育てが良いなと感じる、あるいは逆に大変だと感じるのはどういう時かなどの設問について、保護者に子育ての実感を聞いておられる。この自由記述欄にはかなりの保護者が記入してくれているのではないかと思う。そういった内容分析のところも、是非今後の勉強のために見せていただけたらと思う。</p>
林浩司委員	<p>アンケートを共有する小学校の立場から発言させていただくと、この事業は大変に有意義なものであると思っている。アンケートを実施された幼稚園・保育所のご尽力に感謝申しあげたい。</p> <p>この事業は、対象が年中児なので、小学校の入学は再来年度ということになる。小学校としては、入学までに1年以上の時間がある時期にアンケートをいただけるということは、様々な面で有り難いことである。</p> <p>一つには、再来年度入学予定の年中児が、何人くらいでどこの園に在籍しているのかを、早い時期に把握できることがある。小学校の規模によっては、二十数園から新入生を迎える学校もあると聞いている。そのうえ、子どもの在籍園は年ごとに異なるために、小学校は毎年園との連絡調整に追われている。今回の事業によって早い時期に入学予定児の在籍園が分かれば、小学校から園へのアプローチの方法をいろいろと考えることができると思う。</p> <p>また、アンケートだけで個々の子どもを把握することは困難ではあるが、アンケートから保護者の方々が困っておられること、心配に思っておられることを全体的に知ることができることは、小学校が保護者への理解を深めるために良いことだと思う。何よりも小学校教員がアンケートを読むことを通</p>

	<p>して、未だお会いしたことのない保護者へ気持ちが近づくような気がしている。再来年度の入学を含めて、親子を迎える小学校側の準備ができるということもある。</p> <p>この事業で小学校が最も大切にしたいと考えることは、園と小学校との情報共有である。子どもの様子や保護者の心配事の背景、支援における園の工夫などを園から聞かせていただくことが、いずれ入学される時に非常に役立つものと考えている。新入生を迎える小学校としては、まずは次年度に入学してくる年長児にしっかり対応することが最優先事項ではあるが、年長児に併せて年中児の姿を園と共有することや、また園と早期からの連携を図ることは、小学校が年中児を迎えるために重要だと思っている。</p> <p>このほか、小学校における特別な支援を要する子どもへの支援については、出雲市教育委員会の事業に基づいて対応しているが、小学校の支援体制整備のためには時間の確保が必要である。この事業によって、支援を必要とする子どもの様子を早期に把握することにより、小学校での支援体制の見通しが立てやすくなったと感じている。</p> <p>小学校としては、今後もこの事業を継続していきたいと思っている。</p>
肥後功一会長	<p>専門の部局では、「発達障がい」とか、いわゆる障がい認定に着目した言い方になりがちだと思うが、環境因子とか子育ての難しさとかの様々な要因によって発達障がいのような状態を示される子どもがたくさんおられるのが現状である。診断名によって子どもの発達上の特性を理解するのではなく、子どもの発達を周囲の環境によって変動するものとしてとらえ、障がいの有無に関わらず子どもや家庭への早期の支援を行いながら小学校につなげるという取組が大切である。発達に障がいのある子どもの早期発見という角度からだけではなく、家庭に対する支援ができる場合もあることを考えて、この事業を広い角度から検討いただければ良いと思う。</p> <p>また、アンケートの回答率が99.4%ということについては、園の取組への協力が大きく影響していると思うが、素晴らしいことであるし、そういう自治体は少ないと思う。当然ながら家族への支援が必要な要保護に近い状況の子どもアンケートも提出されていると思われるので、そういう支援が必要な家庭についてもう少し丁寧に見ていただくと良いと思う。</p>
肥後功一会長	<p>議事としては4番目になるが、出雲市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの方向性についてである。これは既に会議でたてている事業計画であるが、主には子どもの出生数から、当初予定していた推計値と3年間の実測</p>

事務局	<p>値との間に一定の乖離が生じているので、事業計画そのものをその数値を修正しながら見直す必要があるのではないかという内容である。</p> <p>(4) 出雲市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの方向性について 【資料4～6】について説明</p>
肥後功一会長	<p>ここまでのデータに基づいて、資料7から計画の数値をどう見直すかという話になるので、まずここまでのところ、特に人口動態、資料6の様々な地域別の人口の動き等について、それを踏まえて当初の計画を少し見直していく必要があるのではないかということになる。資料4～6のところでは何か質問はないか。</p> <p>これだけ大量の資料であるので、できれば事前に送付できれば良かったが、本日始めて見ていただくような形になっている。少し時間をとるので、データの意味も含めて質問をいただければと思う。</p> <p>今、出雲市全体の状況として資料の説明をいただいたが、出雲市の中にも様々な地域があって、その地域全体の動向という風に考えると地理別に違う特色が見えたりすることがあるのか。その辺りの分析はいかがか。</p> <p>どうしても子ども・子育て支援事業計画自体が、全市単位で行っているので、全市の出生率としてはこうだが、地域によっては逆の傾向が出ているのではないかというところがもしあれば教えて欲しい。</p>
事務局	<p>【資料5】の数値は、出雲市全体の推計値である。本日は間に合っていないが、今後中学校区単位で推計値を算出したいと考えている。次回会議で提示することができると思う。</p>
肥後功一会長	<p>今まさに言いたいのはそこで、今生まれてきている子ども達が13年後には中学校に入ってくる。その時の教育の状況は、基本的には現在の人口から予言できるところもある。出雲市はブラジル国籍の方が多くおられるので、それも考慮しなければならない。それにしても一定の予測ができるし、人口の伸び率が何によるかということについても慎重に考えていかなければならないと思う。</p> <p>また、8月に予定されている次回会議で、もう少し詳しい地域別のデータが出てくることになると思う。今は資料6 P 8に少し地域別が掲載されている。他に何か資料について質問等はないか。</p> <p>人口の状況については、深刻というよりは少し上向いているところもある</p>

	<p>ので、上向いた形で計画を見直すというのは有り難いことでもある。どういう理由でいつ頃まで計画が続くのかということが大事なことである。</p> <p>資料4～6で説明いただいた状況を受けて、実際の事業計画のどの数値を見直していくのか、あるいはこの部分については見直さなくても良いのではないかと、数値目標を上げて取り組んでいる課題について、担当から順に説明をお願いするというで資料7に進めさせていただく。</p>
<p>事務局</p> <p>肥後功一会長</p>	<p>(4) 出雲市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの方向性について</p> <p>【資料7】 1. 教育施設（幼稚園等）について説明</p> <p>この時点でお気づきのことがあればお願いする。</p> <p>これはいわゆる1号子ども、幼稚園部分についての量の見込みである。上の表が当初見込みで平成27～29年度については実績値が入っており、かなり大きく違っているので、平成31・32年度分については見直しをすることであった。</p> <p>よろしいか。</p> <p>次に保育施設の部分についての説明である。</p>
<p>事務局</p> <p>事後功一会長</p>	<p>【資料7】 2. 保育施設（保育所等）について説明</p> <p>説明のとおりであるが、いかがか。</p> <p>少し妙な質問をするが、本日冒頭の【資料1】が4月1日時点での今年度の定員数や申し込み者数であるが、今説明された数値は言わば理論値であるが、量の実績値の平成29年度6,092人という数値と【資料1】との関係はどうか。</p>
<p>事務局</p> <p>肥後功一会長</p>	<p>P2の実績値は、【資料1】では実際に保育所に入所の利用の申し込みをされた方の内訳を記載している。計画書上は認可保育所・認定こども園の外に認可外保育所も入れており、これは認可保育所・認定こども園に入所を希望されていない方、初めから認可外保育所のみを希望されている方もあり、この実績値を計算するに当たっては、入所申し込みをされている方と、認可外保育所に実際に入所されている方との合計をあげている。</p> <p>ということは、計画に出てくる実測値の方が、実際に入所を申し込んだ実数(a+b+c)6,406人よりも少ないことには問題はないのか。</p>

事務局	<p>【資料1】の申込者数は予約内定者 457 人を含んでおり、この予約内定者は4月2日以降の入所を希望されている方である。また、入所未決定者の中には現に保育所に入っているが、転園を希望しておられる方や、4月1日以降の入所希望の方を差し引いた形で計算をしているので、実際には、平成29年度では入所申込を出された方は約 5,800 人という計算になっている。</p>
肥後功一会長	<p>理論値とのズレはどうしても生じるとは思うが、実測値が合理的にズレているのは問題ないが、500 人程度違うので、こういった理由でズレているのかと少し気になったので。事務局的に問題なければ良い。</p>
事務局	<p>補足であるが、現在認可保育所に入所しておられる方が、他の保育所へ転園を希望されている場合は、申込者数に含まれることになる。こうなるとダブルカウントとなるので、実際にどこの保育園に入所されておられるかで、入所者数をつかむことによりダブルカウントがなくなる。</p> <p>また、認可外保育所に今入っておられ、認可保育所の入所を申し込まれた方についても同様にダブルカウントになるので、それを差し引くことにより、この数値になるということである。</p>
肥後功一会長	<p>【資料1】 1. 保育所等の入所状況の(2)保育所待機児童の状況について、表の下段にある4つの理由を差し引いていくと、実数としては合致するということになる。</p> <p>他に質問等ないか。</p> <p>詳細に計算をしないと大変な事業である。</p> <p>次の事業からは、いわゆる13事業になるが、利用者支援に始まって様々な子ども・子育て支援の事業計画について、見直すこと見直さないことについて説明をいただく。</p> <p>まずは、利用者支援に関する事業である。</p>
事務局	<p>【資料7】 3. 利用者支援に関する事業について説明</p>
肥後功一会長	<p>これは子どもの人口変化に伴ってというより、事業計画そのものを国の支援策等と絡めて考える時に、当初計画では3か所開設となっていたものを、1か所に絞り込んでまずは開設し、その先、現在ある2か所の子育て支援センターをどのように活用するかということに関しては、今後また計画を立て直すということで提案があった。</p>

	<p>なくすということではなく、利用者支援に関する事業をあと2か所でも行うという計画をたてていたのを、とりあえず取り下げるという考え方である。</p> <p>具体的には、8月開催の会議で平成30・31年度の数値を入れながら提案をいただき、そこで再度確認いただくということである。本日ここで決定するというのではない。今後、見直しをする計画があるということの説明である。</p> <p>委員には次回までに様々な方向から考えていただき、当初計画の変更をする段階でも意見を言っていただければと思う。今日のところは説明を聞くということである。</p> <p>次に13事業の2番目の事業、時間外保育事業である。これは見直しを行わないとなっているが、説明をお願いする。</p>
事務局	<p>【資料7】4. 時間外保育事業について説明</p>
肥後功一会長	<p>これについては、見込みと実績値との間に大きな乖離がないので、見直しが必要がないのではないかという説明であった。</p>
事務局	<p>【資料7】5. 放課後児童健全育成事業について説明</p>
肥後功一会長	<p>最後の表についてであるが、平成29年度は1施設減となる予定であったのが、実績値としては減となっていない。これはどういうことか。既に出来るはずのものをカウントしていたのか。</p>
事務局	<p>当初計画を策定した時（平成26年度）に、既存の施設2クラブを統合するという計画があったが、現在、各クラブを活かしながら利用しているので、変わらず44クラブとしている。</p>
肥後功一会長	<p>児童クラブについては、利用者数について再度ニーズ調査をかけながら見直していく、施設数に関しても見直しを行うということであった。</p> <p>次は、乳児家庭全戸訪問事業である。</p>
事務局	<p>【資料7】6. 乳児家庭全戸訪問事業について説明</p>
肥後功一会長	<p>このように全事業の説明を進めていく予定であったが、この後は量の見込</p>

	<p>みと実績値に大きな乖離がないので、見直しを行わないという事業については、少し重要な説明以外は省略させていただいても良いか。</p> <p>7. 養育支援訪問事業</p> <p>8. 子育て短期支援事業（ショートステイ）</p> <p>9. 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）</p> <p>については、大きく量の見込みとの乖離がないということで、見直しをしないということで良いか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
肥後功一会長	<p>次は、一時預かり事業である。これは幼稚園の預かりであるが、これについては見直しを行うとされているので説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料7】10. 一時預かり事業（幼稚園における在園児を対象とした預かり事業）について説明</p>
肥後功一会長	<p>説明のとおりであるが、何か意見があるか。</p> <p>次は、</p> <p>11. 一時預かり事業（幼稚園型を除く）、子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター事業：病児対応、就学後を除く）、子育て短期支援事業（トワイライトステイ）</p> <p>であるが、保護者の仕事とか様々な状況によって、夜間あるいは休日に不在となり、子どもを預かってもらう必要が生じた場合に利用するのが、トワイライトステイである。</p> <p>12. 病児・病後児保育事業、子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター事業：病児対応）</p> <p>は、当初計画から大きな変更、利用者が急に増えたということはないので、見直しは行わないという提案であった。</p> <p>何か特段に説明がなければ次に進めるが。</p>
事務局	<p>特にない。</p>
肥後功一会長	<p>次はファミリーサポートセンター事業の就学後の子育て援助活動事業であるが、これは見直しを行うこととなっているので説明をお願いします。</p>

事務局	<p>【資料7】13. 子育て援助活動支援事業(ファミリーサポートセンター事業:就学後) について説明</p>
肥後功一会長	<p>これは本日2番目の議題にあったような児童クラブの対応によって、量の見込みが当初より減になるのではないかとということで修正すると考えているということか。現在は1,000件近く増となっているが。</p> <p>これについても、具体的な数値は8月以降に開催する会議で報告いただくこととなる。</p> <p>次の、</p> <p>14. 妊婦に対して健康診査を実施する事業</p> <p>に関しては、対象者の大幅な増減が見込めないため量の見込みの見直しを行わないという提案をいただいている。</p> <p>以上、事務局から数値の見直しを行う部分については、丁寧に説明をいただいた。</p> <p>委員のみなさんから、全体を通して意見等あればお願いします。</p> <p>子ども・子育て支援事業計画は、大きな理念的な部分もありながら、本当は非常に細かい数値の積み重ねによって構成されている部分もあるので、そういった点もご覧いただきながら、検討していきたいと思う。</p> <p>最後に事務局の方から今後の予定について説明があると思うので、マイクをお返しする。</p>
事務局	<p>4 今後のスケジュール</p> <p>【資料8】 について説明</p> <p>この予定について、何か質問等ないか。</p> <p>何か質問等あれば、後日事務局にお問い合わせいただけたらと思う。</p> <p>また、本日の会議録については、冒頭申しあげたが、肥後会長に確認をいただいた上で委員のみなさまにお送りした後、市のホームページ等で公開させていただきたいと考えているので、ご了承いただくようお願いする。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>閉会にあたり、子ども未来部部長の石飛がごあいさつを申しあげる。</p>
子ども未来部長	<p>肥後会長、進行お世話になった。また、委員のみなさまからは、現場からの声であったり、オーバーワークではないかというような心配をいただいたり、励ましの言葉をかけていただき大変嬉しく思う。</p>

この6月議会、出雲市議会選挙後の最初の定例会においては、子育て関係については沢山の質問・意見等をいただいた。

出雲市の人口は増えてきているが、その受け皿になる子育て支援の体制がまだまだ十分ではない。そういった意味で、市民の関心がとても高い分野になってきている。

8月9日の会議では、この計画の見直し（案）、できるだけ全ての事業の見直しと書いてある部分に、何らかの数値が入る形のを提示できるよう、職員一同頑張って事業の中身を精査・整理していくので、今後ともよろしく願います。

本日は長時間のご審議感謝申しあげる。

以上